

森林環境調査報告書

概要版

令和 4 年 3 月

船橋市

I. 調査概要

1. 調査の目的

林業の担い手不足・高齢化が進行し、森林の適正管理や担い手確保が全国的な課題となっている。こうした中、2019年3月に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立し、森林環境税（2024年度から課税）及び森林環境譲与税（2019年度から譲与）が創設された。本市でも、これらの制度を活用しながら一層の森林振興施策に取り組んでいくことが求められている。

このような環境を踏まえ、森林所有者や市民、森林ボランティア団体など関係者の現状や意向を把握し、今後の森林整備及びその促進について検討するため、本調査を実施する。

2. 調査の手法

本調査は、以下の手法により実施した。

(1)統計・文献調査

統計資料や各種文献をもとに、本市の森林の現状やその特徴等を整理した。

(2)森林所有者向けアンケート調査

林地台帳に記載されている所有者802名（発送した961名のうち、宛先不明で未達となった159名を除いたもの）に対し、森林の整備状況や今後の整備方針、市に求める施策等を尋ねるアンケート調査を実施した。

(3)市民向けアンケート調査

無作為で抽出した船橋市在住の男女1,000名及び市政モニター300名に対し、市内の森林の認知度や触れ合いの状況、市に求める施策等を尋ねるアンケート調査を実施した。

(4)森林ボランティア団体ヒアリング

本市で活動する森林ボランティア6団体に対し、活動の現状や課題、森林環境譲与税の活用、市に求める施策等に関するヒアリングを実施した。

II. 各種調査の主な結果と課題、対応の方向性

各種調査の主な結果と把握された課題・対応の方向性について、（１）森林の整備、（２）人材の育成及び確保、（３）森林の有する公益的機能に関する普及啓発、（４）木材の利用の促進、の４つの観点から整理する。

（１）森林の整備

① 森林整備全般について

森林整備全般に関する課題と対応の方向性は次のとおり。

調査項目	主な調査結果
船橋市の森林の現状 (統計調査等)	●本市の森林は県内でも比較的小規模で、かつ分散して所在しているため、施業の共同化がしにくい状況にある。
森林所有者向け アンケート	●森林の管理状況について、「森林の管理は５年以上行っていない」（26.6%）、「森林の管理は行っていないが、見回りや目立つところの草刈程度は行っている」（25.0%）が合わせて半数を超える。 ●管理していない森林の状態について、44.8%が「荒れている」と回答している。 ●伐採した木材の処分方法について、「森林内に集積する」が51.1%で最も高く、運搬等の措置が採られていない。 ●森林環境譲与税の希望する使い道について、「森林整備（草刈りや枝打ち、間伐、植林などの森林の手入れ、里山林の保全など）」が48.2%で最も高い。
市民向けアンケート	●森林環境譲与税の優先的な使途とすべき項目は、「森林整備（草刈りや枝打ち、間伐、植林などの森林の手入れ、里山林の保全など）」が82.2%で最も高い。次いで「担い手の育成（森林の手入れを行う森林組合、森林ボランティア、企業などの育成）」が51.7%となっている。
森林ボランティア ヒアリング	以下のような声が聞かれている。 ●活動時に切った木や、竹チップ等の輸送手段がほしい。 ●不法投棄防止用の防護柵（竹柵）の改修、新設を検討してほしい。 ●コナラ、杉、ヒノキなど、伐採した後に植える苗木を入手したい。 ●保険料や資格取得、数年に一度の機械更新、燃料代等の補助があればありがたい。特に燃料代は切実である。

課題の総括	●所有者は、市内森林の十分な管理ができておらず、荒廃している森林もある状況。 ●所有者からも市民からも、森林環境譲与税の使途として、森林整備を求める声が最も多い。 ●森林ボランティアからは、活動時に切った木の運搬手段の確保や、設備・経費等の助成、苗木の入手、防護柵の改修・新設等を求める声が聞かれる。
-------	--

対応の方向性	①森林環境譲与税の森林整備への活用。 ②活動時に切った木の運搬手段の確保、設備・経費等の支援、苗木の入手、防護柵の改修・新設等の支援。
--------	---

② ナラ枯れについて

ナラ枯れに関する課題と対応の方向性は次のとおり。

調査項目	主な調査結果
森林ボランティア ヒアリング	以下のような声が聞かれている。 ●ナラ枯れが発生した木は、森林内に玉切りにして積んである状態であるが、そこから原因となる虫が飛んで拡散してしまう。<u>運搬・焼却費用を助成してほしい。</u> ●<u>ナラ枯れは相当の被害が発生している。</u>ナラ枯れに関して、まだ有効な対処方法が確立されていないため、「この方法を試したらこのような結果が出た」とか、「1年後2年後にこうなった」というような<u>検証</u>をしたい。 ●ナラ枯れが広がらないよう、<u>報告したらすぐその木を切ってほしい。</u>
課題の総括	●市内の森林について、ナラ枯れによる被害を訴える向きが多い。 ●ナラ枯れ対策の実施について、市による速やかな伐採や、薬剤・資材等の費用助成、実験的手法の検証を求める声が上がっている。
対応の方向性	①ナラ枯れ対策に係る、市による伐採・薬剤散布等の対策の実施。 ②森林ボランティアによる、ナラ枯れ対策の薬剤・資材等の必要経費の支援（まだ有効な対策が確立されていない点も踏まえて、実験的な手法の実施も支援する）。

(2)人材の育成及び確保

人材の育成及び確保に関する課題と対応の方向性は次のとおり。

調査項目	主な調査結果
森林所有者向け アンケート	● 森林の管理方法について、「<u>他者に森林の管理をお願いしている</u>」が 34.4%で最も多く、「自分で森林の管理を行っている」(27.3%)を上回っている。 ● (上記「他者に森林の管理をお願いしている(34.4%)」について) 管理をお願いしている先は、「<u>森林ボランティア</u>」が 55.0%で最も高い。 ● 森林の管理を行わない理由として、「<u>人手がない</u>」が 44.4%で最も高い。 ● 今後の管理及び手入れについて、「<u>家族以外の他者に委ねる</u>」が 44.5%で最も高い。 ● <u>今後森林を管理する後継者は</u>、30.8%が「<u>いない</u>」と回答している。
市民向けアンケート	● 森林環境譲与税の優先的な使途とすべき項目について、森林整備に次いで、「<u>担い手の育成(森林の手入れを行う森林組合、森林ボランティア、企業などの育成)</u>」が 51.7%に上っている。
森林ボランティア ヒアリング	以下のような声が聞かれている。 ● <u>高齢化</u>や<u>人員確保</u>が課題となっている(多くの団体から声があがっている)。 ● 森林整備養成講座など、<u>森林に興味を持たせるような講座を開催</u>してほしい。 ● チェーンソーの扱い方など、<u>技術面での講習を実施</u>してほしい。 ● 市のホームページや広報など、<u>活動内容に関する情報発信</u>をお願いしたい。 ● 森林ボランティア活動は無償で行っているが、活動経費が負担となっている。保険料や資格取得、機械更新、燃料代当の<u>活動経費を補助</u>してほしい。

課題の総括	① 森林所有者は、所有する森林管理を、森林ボランティアなど他者に依頼したい者が多い。 ② 森林ボランティアでは、高齢化の進行と新規会員の獲得が課題となっている。 ③ 現在、多くのボランティアが森林整備を無償で行っており、費用も自己負担となっている。 ④ 市の対応として、森林に興味のある市民とボランティア団体とのマッチング、森林整備養成講座や技術講習会の実施、活動の PR 等を求める声が多い。
-------	--

対応の方向性	① 森林整備に係る費用負担の軽減検討。 ② 森林に興味を持たせる講座や、技術講習会の実施。 ③ 市の広報にとどまらず、インターネットや SNS を用いた、森林ボランティアの活動の PR 及び興味のある市民とのマッチング。
--------	--

(3) 森林の有する公益的機能に関する普及啓発

森林の有する公益的機能に関する普及啓発の課題と対応の方向性は次のとおり。

調査項目	主な調査結果
船橋市の森林の現状 (統計調査等)	●本市は県内でも人口が集中する県北西部に所在し、かつ都心からのアクセスも良いため、 <u>本市の森林には周辺市街地や都心からの都市住民が気軽にアクセスできる。</u>
森林所有者向け アンケート	●所有している森林を、ボランティアが間伐したり、市民の木育・体験等に使用して良いかについて、「 <u>積極的というほどではないが、使用しても構わない</u> （48.8%）」、「 <u>積極的に使用してほしい</u> （17.3%）」が合わせて 66.1%に上っている。
市民向けアンケート	●船橋市内の森林で何をしたか、またはしたいかについて、「 <u>散歩・ジョギング</u> 」が 61.8%で最も多く、次いで「 <u>自由に遊ぶ</u> 」が 45.0%、「 <u>景色を楽しむ</u> 」が 44.7%、「 <u>自然観察</u> 」が 40.0%となっている。
森林ボランティア ヒアリング	以下のような声が聞かれている。 ●市民に森林整備について知ってもらうため、<u>森林への理解促進のためのイベントの実施に力を入れて欲しい。</u> ●本市の森林やその機能について、<u>広報誌やインターネット等で幅広く PR してほしい。</u> ●ボランティア団体が実施するイベントについて、<u>告知・PR してほしい。</u> ●市の教育部門と連携し、<u>市内の森林と、小中学生をつなげると良い。</u>

課題の総括	●普及啓発の対象となる市民のニーズは、「散歩・ジョギング」、「自由に遊ぶ」、「景色を楽しむ」、「自然観察」など、体験型のメニューに対する要望が多い。 ●小中学生への普及啓発や、森林の公益的機能及び各種イベントに関する市の PR 強化を求める声が上がっている。
-------	--

対応の方向性	①市の内外から人を呼び込む、体験型の普及啓発イベントの実施や開催支援。 ②教育部門での普及啓発。 ③インターネットや SNS、リーフレット、解説版等、多様な媒体を活用した市の PR 活動の強化。
--------	---

(4)木材の利用の促進

木材の利用の促進に関する課題と対応の方向性は次のとおり。

調査項目	主な調査結果
船橋市の森林の現状 (統計調査等)	●本市の森林は県内でも比較的小規模で、かつ分散して所在しているため、<u>産業としての活用が難しい</u>。 ●林産物を販売している林業経営体は存在しておらず、<u>収益事業としての林業は営まれていない</u>。
市民向けアンケート	●公共建築物などへの地域産材の利用方法について、「<u>市の公共施設の内装や家具類など</u>」が 58.9%で最も高く、次いで「<u>学校・保育所などに木製のおもちゃや道具などの設置</u>」が 56.1%、「<u>駅やバス停などの建築物の内装やベンチなど</u>」が 54.0%となっている。
森林ボランティア ヒアリング	以下のような声が聞かれている。 ●整備している森林は、面積といい立地条件といい、<u>建築材を産出できるような森ではない</u>。

課題の総括	●市内での木材利用について、市民からは、「市の公共施設の内装や家具類など」、「学校・保育所などに木製のおもちゃや道具などの設置」、「駅やバス停などの建築物の内装やベンチなど」といったニーズが上がっている。 ●一方、市内の森林は規模が小さく、木材の産出が見込めるものではないため、木材の活用については、本市は供給者ではなく消費者としての立場で、県産材や国産材の利用を促進する方策を検討すべきである。
-------	---

対応の方向性	①市の公共施設、学校・保育所、その他木製製品を有効活用できる場所での、県産木材や国産木材の活用。
--------	---

III. 森林環境譲与税を活用した取組例及び今後検討すべき事項

本市の森林は小規模であるものの、都市部からのアクセスが良く、市民に憩いの場として親しまれており、良好な都市形成や交流人口拡大のための資源として高いポテンシャルを有している。

一方、これまでの調査結果でみたとおり、本市の森林所有者は保有する森林を必ずしも十分に管理できているとはいえず、森林ボランティア団体が整備をカバーしている状況にある。しかし、その森林ボランティア団体も、高齢化や人員減少という深刻な課題に直面している。

森林ボランティア団体は、今後も本市の森林整備の担い手として重要な役割が期待されるため、その活動の持続性を確保する取組が重要となる。費用負担の軽減や情報発信の支援等の個別の方策だけでなく、施策の効果を最大化するため、各団体が各個に独立して活動するのではなく、一つの大きな活動単位（チーム）として相互に連携し、より効率的、効果的に活動していただくよう協力を得ることも重要となる。

こうした前提のもと、本項では森林環境譲与税を活用した取組例と、今後検討を要する事項を、（1）森林の整備、（2）人材の育成及び確保、（3）森林の有する公益的機能に関する普及啓発、（4）木材の利用の促進、の4つの分野から提示する。

（1）森林整備の推進

取組例	森林整備事業
内容	・雑草木の刈り払いや間伐等、森林整備を行う団体（森林ボランティア等）に対し、整備内容に応じた支援を行う。

取組例	危険木処理委託
内容	・自然災害等での倒木によるライフライン等への影響を令和2年度に調査した結果、危険木は81か所あった。その中でも特に危険度の高い26か所のうち3か所については、令和3年度に処理し、令和4年度は残る23か所について、危険木の伐採や枝落としの処理を行う。 ・なお、残った55か所の危険木については、今後経過観察し、必要に応じて対処する。

取組例	ナラ枯れ枯損木処理委託
内容	・市内でも報告されているナラ枯れによる被害拡大を防止するために、枯損した木々の伐採、運搬及び焼却等処分を実施する。

【今後さらに検討すべき事項】

- ・所有者・ボランティアによるナラ枯れ対策の支援
- ・森林整備に資する苗木確保の支援
- ・伐採した木材の運搬支援
- ・森林機能の維持・発揮に資する設備の設置・改修等に関する支援

(2)人材育成と担い手確保

取組例	PR 事業（ホームページ、SNS 等）
内容	・市のホームページや、Twitter、Facebook など、森林関係のイベントや、市内の森林ボランティアの活動内容、森林の公益的機能等に関する情報発信を行い、森林に興味のある市民の参加を促すことで、担い手の確保を目指す。

【今後さらに検討すべき事項】

- ・人材育成のための研修会の実施
- ・森林整備を行うための装備や機材、消耗品等の確保支援

(3) 森林に関する普及啓発の実施

取組例	PR 事業（ホームページ、SNS 等）【再掲】
内容	・市のホームページや、Twitter、Facebook など、森林関係のイベントや、市内の森林ボランティアの活動内容、森林の公益的機能等に関する情報発信を行う。市民のみならず、市外住民も意識して発信を行うことで、交流人口の拡大に寄与することも目指す。

【今後さらに検討すべき事項】

- ・森林の有する機能に関する解説板の設置
- ・森林の普及啓発を図るリーフレット作成
- ・森林に関する体験会やイベントの実施支援
- ・教育部門での普及啓発や林業体験の実施

(4) 木材利用の促進

取組例	公共建築物の外装・内装の木質化
内容	・「船橋市公共建築物等における木材利用促進方針」（令和 2 年 9 月）に従い、公共建築物の県産木材・国産木材による木造化や木質化を図る（学校や公共施設改修における木質化等）。 ・この際、スペースが許す場所には、傍に国産材を用いている旨、森林の機能等の解説版を設置する。

【今後さらに検討すべき事項】

- ・市内の公共施設や教育施設等での、県産木材・国産木材を用いた木製製品の活用促進
- ・伐採木のリサイクル促進

船橋市 森林環境調査報告書 概要版

令和 4 年 3 月

船橋市経済部農水産課

〒273-8501 船橋市湊町 2-10-25

電話 047(436)2493

FAX 047(436)2485

メール nosuisan@city.funabashi.lg.jp

ホームページ <http://www.city.funabashi.lg.jp>

